



(こども版) としょかんだより No.291

2008年

7・8月号

# わくわく本だな

富山市立図書館

## 今月のおすすめ



= 1・2年  
= 3・4年  
= 5・6年

- あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします -

「川であそぶ - 安心・安全 大自然とあそぼう2 - 」 (ちしき)

小菅 盛平 / 作 アリス館

ザリガニつりやささぶね競争<sup>きょうそう</sup>、石で水切り遊びなど、川ではいろいろな遊びを楽しむことができます。水着になって泳いだあとは、つった魚を塩やきにして食べてみましょう。川で遊ぶ時は、必ず大人の人といっしょに行つてね。



「2年3組ワハハぐみ テストで100てんとするにはね・・・」

薫 くみこ / 作 ポプラ社



どんどこ山小学校2年3組は、いつも楽しいわらいでいっぱい。だけど、勉強はちょっぴりがてなクラスです。たんにんの先生が、かぜでお休みの間、かわりにやってきたのはアヒル木先生。先生はさっそくテストをしようとはりきっています。

「花火とおはじき」

川島 えつこ / 作 ポプラ社

あいは、どんな時も大すきなおばあちゃんといっしょでした。ところが、元気だったおばあちゃんがとつぜんしんでしまいます。おそうしきの前のばん、あいは、ふしぎなおねえさんにさそわれて、おばあちゃんとやくそくしていた花火を見に行くことになりました。



# 夏休み特集

さあ、いよいよ夏休みのはじまりですね！  
みなさんは、どこかに旅行へ行きますか？  
行く人も行かない人も、本の中で  
日本中を旅してみましょ！



## 広島

### 「広島にチンチン電車の鐘が鳴る」

きむら けん / 作 汐文社

戦争中、女学生たちは運転手や車掌になって、  
はたらきました。そして8月6日の朝、町に原爆が  
落とされます。

名物：お好み焼き  
(むかしは、駄菓子屋でつくっていたおやつでした。)



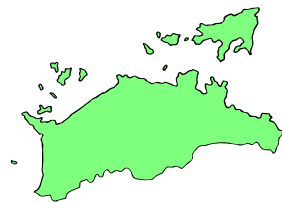
## 沖縄

### 「先生はシマンチュー年生」(えほん)

灰谷健次郎 / 作 童心社

関西からやってきた先生はシマンチュ(島の  
人)になりたいと話します。

方言：ウミンチュ(海で働く人)



## 香川

### 「卒業うどん」

服部千春 / 作 講談社

京都に住む綾香とタッチは、坂上君にさそわれて、香川県にうどんを  
食べに行くことにします。大人にはないしょの、一泊だけの家出です。

名所：金刀比羅宮(こんぴらさん)海の神様として親しまれています



## 北海道

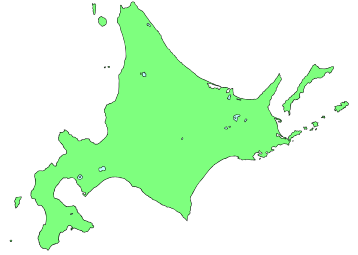
### 「しまふくろう」(えほん)

山本純郎 / 作 福音館書店



森の奥深くにすむしまふくろうのくらしを描いた写真えほん。

方言：なまら(とても)どごどごに(けっこうです)



## 富山

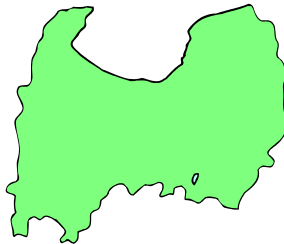
### 「風の盆の町」

松浦とも子 / 作 PHP 研究所

夏美は、東京から八尾町に引っ越してきました。

9月1日、はじめておわらを踊りをするようになりました。

祭り：おわらは、全国からたくさんの人が見にくる有名なお祭りです。



## 岩手

### 「ざしきわらし一郎太の修学旅行」

柏葉幸子 / 作 あかね書房

家出をした資は、駅で出会ったざしきわらし(家を守る妖怪)といっしょに東京に行くことになりました。

名物：わんこそば

(たくさん食べる大会もあります。)



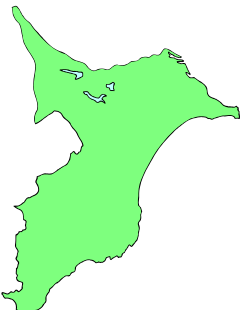
## 千葉

### 「鬼が瀬物語 魔の海に炎たつ」

岡崎ひでたか / 作 くもん出版

明治時代、満吉にはどんな嵐にも負けない船を作るという強い夢がありました。

千葉の荒海、鬼が瀬を舞台にしたシリーズ1作目。



# あたらしくはいった本

## 「オオカミグーのはずかしいひみつ」 (えほん)



きむら ゆういち / さく  
童心社

オオカミのグーは、お母さんがきらいでした。なぜなら、お母さんが“イタチ”だからです。赤ちゃんのグーをひろって大事に育ててくれたお母さんでしたが、オオカミの友だちにからかわれるのがいやでたまりません。

## 「しろくまのアンヨくん」

角野 栄子 / 作  
クレヨンハウス

アイウエ動物園のしろくま、アンヨくんはいつもおりの中を歩いています。ある日、アンヨくんは、「ぼくはどうして歩いているんだろう」と考えこんでしまいました。



## 「<sup>たき</sup>滝まぐらの君」

牧野 礼 / 作  
岩崎書店

<sup>もの</sup>物の怪の<sup>け</sup>たたりか、帝の姫である三の宮が病にたおれました。姫を<sup>あさつゆ</sup>すくうために貴族の少年、朝露と<sup>はるか</sup>遙は都をぬけ出します。国を守っているとされる“滝津神”のもとへやってきた二人は、たてがみと<sup>たきつかみ</sup>うろこをもった<sup>かいぶつ</sup>怪物におそわれます。それは伝説の<sup>けもの</sup>獣“水蛟”でした。



## 「先生と老犬とぼく」

ルイス・サッカー / 作  
文研出版

マーヴィンは、先生に<sup>るす</sup>の間の犬の世話をたのまれます。期間は1週間。はじめてのアルバイトにはりきりますが、犬のウォルドはえさを食べてくれません。マーヴィンは自分でドックフードを食べてみせますが、ウォルドはしらん顔です。

< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7272